

熊谷崇の挑戦 感想文

つきやま歯科医院 勤務医

総合診療医 野間俊宏

読み終えた時、熊谷先生が通ってきた茨の道を知り、またそれを乗り越えるためには並大抵の意志の強さではなかったことがわかりました。熊谷先生が歩んできた道、海外の歯科医師の招聘、歯科医院での患者教育、地域や学校への教育、企業への働きかけは、熊谷先生が荒野を整備してくれた道であると思います。先を歩んでいただいた熊谷先生に続き、EBDのように我々は巨人の肩に乗って…ではなく、同じ目的を持つ同士としてこの整地された道を更に広げ、大きな街にしていかなければならないのです。それが歯科医師、歯科衛生士、歯科に関わった人間の使命であると。

私たちは日本国民の口腔健康、ひいては全身の健康を守るために全力を尽くす。それには伝え、発信することが必要だと思っています。ですが、発信するだけではなく、受け入れることも重要だと思います。一方的に話すだけでは考えを受け入れてはくれない。患者さんの環境や人柄、またそれ以外にも普段か

ら周りからの知識を受け入れる姿勢を持つことで、自分の考えを伝えたときに受け入れ易くなるのではないのでしょうか。これは僕が出来ていないだけで、きつとつきやま歯科の先生方を始め、先輩歯科医師の大半は診療を通じて自ずと出来ていることだと思います。押し付けでなく、柔軟な姿勢を持ちながら日々を過ごして生きたいと思います。

驚嘆させられたのは学校検診についてです。私も学校検診に行ったことがありますが、何の疑問もなくただベルトコンベアに流れてくる様に子どもたちの口の中の報告をしていました。今の業務に疑問を持ち、現状で自分たちの掲げる目標を達成することが出来るのかを考える事は容易ではないと思います。私達の目標と学校の養護教諭との考えのズレを知り、それを実際に行動する。思ったら突き進む、今の自分に足りない、必要なことだと感じられました。

改めてこの本の表紙を見ると、「これが夢の診療所だ！」とあります。今はまだ夢かもしれませんが、これを夢のままにしてたまるか、夢で終わらせないために熊谷先生や我々が行っていることをブレずに行っていかなければなりません。度々この本にできてた「共有」という言葉。共通目的、Core purposeをもって共に前に進むことがどれだけ力になるか。そして、ブレやすい自分がしっ

かりと「日本国民の口腔健康価値の革新」を Core purpose に、それを達成するためには「つきやま歯科医院を通院する患者さん、近隣住民の口腔への価値観を教育」し、そのために「MTM と患者セミナー」を通じて拡げていくため、自分の部屋に目標を書いて日々忘れないよう努めています。この紙が有るうちはまた自分がブレかけている、なくなって初めて一人前だと思い、日々精進したいと思っています。

現状に満足せず、常に考え前に進むこと。当然でありながら、非常に難しいことを熊谷先生は 30 数年間やり遂げ、それを伝えているのだと感じています。もう一度原点に立ち返り、何故歯医者になったのか。歯医者としてこの世の中に貢献することは何なのかを常に振り返りたいと考えています。この度はこのような本を読む機会を与えていただき、ありがとうございました。